



市立病院

〈第 95 回〉

「心臓と血管の疾患と治療 ～ 10 年の軌跡～」

■問合せ / 市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450



〈今月のドクター〉

副院長兼
心臓血管外科長
佐藤洋一 医師

私が米沢に赴任して 10 年が経過しました。心臓と血管の疾患に対する治療法も少しずつ進歩しており、ここでは疾患の説明と最新の治療法について述べさせていただきます。

1 心臓・大動脈

1 心臓弁膜症：心臓の中に血液をスムーズに流すための弁が何個ありますが、これが硬く厚くなって狭くなったり、またはうまく閉じなくなって血液が漏れたりする疾患です。心臓に負担がかかって大きくなり動きが悪くなると心不全の状態となり、全身が浮腫んで息苦しさや動悸を自覚します。当院では悪くなった弁を人工の弁に交換するまた

は漏れないように修復する治療を行っています。

2 狭心症・心筋梗塞：心臓の表面に冠動脈という血管が脂肪の中に埋まって走行していますが、これが動脈硬化で狭くなるまたは閉塞する疾患です。狭くて血流が足りないと狭心症を発症し、運動時に締め付けられるような胸の痛みが生じるのですが、完全に閉塞すると心筋梗塞に至り命に関わります。カテーテルで治療が可能ですが、どうしてもバイパス手術でしか治せない病変もあります。当院では循環器内科と連携して必要な場合には手術を行い、カテーテル治療でうまくいかない場合にも緊急で手術を行う最終手段があります。手術では体外循環を用いずに心臓を動かしたままバイパスできます。

3 大動脈瘤：胸やお腹の大動脈にできた瘤が膨らんで大きくなり、破裂すると出血してそのまま死亡することが多い恐い疾患です。当院では胸やお腹を開いて瘤を切り取って人工の血管を大動脈に縫い付ける大きな手術が当然可能ですが、人工血管にステントというバネ状の金属が縫い込まれているステントグラフトを太ももの付け根の動脈か

ら挿入して治療する方法も可能です。創は 3 から 4 cm と小さく手術翌日から食べて歩けます。

2 末梢の動脈・静脈

1 下肢閉塞性動脈硬化症：臍のところで左右の動脈が分かれていますが、そこから足先までの動脈が硬く狭くなるまたは閉塞する疾患です。血流が悪くなるので歩くとふくらはぎが張るまたは痛みます。足先が壊死すると切断の可能性もあります。血管をカテーテルで内側から拡げる治療やバイパス手術がありますが、当院では全て可能であり、カテーテルでうまくいかない場合も緊急で手術を行う最終手段もあります。

2 下肢静脈瘤：脚の皮下静脈の弁が壊れて長年経過すると、血液が下腿の皮下静脈に溜まってポコポコに膨れてくる疾患です。下腿が浮腫む、だるい、重い、脚が攣る、痛い、かゆいなどの症状がでます。当院ではレーザーで皮下静脈を焼いて詰める治療ができます。創も少なく、4 mm と小さいです。局所麻酔で行い術後すぐに歩けます。

まだまだ元気で頑張りますので今後ともよろしく願いいたします。